

第3回

自らまもる活動レポート



延岡市防災推進室長
野々下博司さん

平成17年の台風14号の被害を受け、首藤延岡市長の新体制のもと延岡市防災推進室を発足しました。推進室長である野々下博司さんに、「延岡市災害ボランティアネットワーク」について語っていただきました。

延岡市防災推進室の現在の取り組みを教えてください。

延岡市の防災推進室では、延岡市災害ボランティアネットワークの拡大と、リーダーの育成に努めています。現在、95団体、約2,000人のボランティアの方々が登録しています。もともと、延岡市はボランティア活動が活発なこともあり、学生からお年寄りの方までたくさんの方が参加しています。

ボランティアネットワークの活動の状況をお聞かせください。

一昨年の台風13号の竜巻被害の際、たくさんのボランティアの方に、ご協力いただいたことで、復旧への大きな力となりました。また、昨年9月には、台風5号の影響で漂着した大量の流木を撤去するため「海岸清掃大作戦」を行ない、市内外から3,400人ものボランティアに参加いただきました。重機が入らない場所での清掃作業は、流木などを、1本1本チェーンソーなどで切断し、パケツリレー方式で運び出す大変な作業でしたが、およそ半日

で片付けることができました。ボランティアの力がいかに大きいかを改めて知らされる出来事となりました。

ボランティアリーダーづくりのきっかけをお聞かせください。

被災地での復旧活動では、ボランティアへの迅速な対応や、的確な指示が必要となります。そのため、現場からのニーズを把握する現場指揮者が求められていました。また、行政が機能しなくなった場合でも、ボランティアリーダーが独自に判断し活動できるよう社会福祉協議会を窓口で育成と支援を行っています。

その他の取り組みをお聞かせください。

災害情報メールが役立っています。河川の水位等の情報や避難情報等を携帯メールで受け取ることができます。また、これまで災害時の食料の備蓄は6,000人分しかなかったのですが、ホテルやお寺、保育園等の厨房設備のある施設とネットワークを結び、食料の供給体制を確保しました。現在、国土交通省を中心に激特事業が進められています。かなり安全性が向上したと言えますが、ハード面での対策だけでは充分とは言えません。特に災害現場での対応は、行政とボランテ

ィアが協力して活動する方が上手いきます。その中で、行政もボランティアと一緒に汗をかいて活動することが大切です。

最近では、自主防災組織づくり等を通して、各地区の区長さんと顔見知りになり情報交換ができるようになりました。地区の方々と一緒にやっていくことで解決できることが沢山あります。引き続き、多くの方々にボランティア参加を呼びかけていきたいと考えています。ぜひ、あなたもボランティアネットワークにご参加下さい。

本日は貴重なお話を、ありがとうございました。(平成20年2月取材)



延岡市災害ボランティアリーダー養成講座

ボランティアネットワークへのお問合せ

延岡市消防本部 0982-22-7105
防災推進室 22-7077

延岡市災害ボランティアネットワークに加入しませんか!

地震や台風等の大きな災害が発生した場合、その対応には多くの人員、資材が必要となり、民間企業・団体や市民有志の協力が不可欠です。災害時のボランティア活動を円滑にそして速やかに実施することを目的にボランティアの事前登録を行う延岡市災害ボランティアネットワークが発足しました。延岡市社会福祉協議会が事務局として皆さんの登録を受け付けます。ぜひ、災害ボランティアネットワークへの加入をお願いします。

参加申込み 延岡市社会福祉協議会

Tel. 0982-32-6555 FAX. 0982-35-5863
メールアドレス: vol-cen@ma.wainet.ne.jp
会費は無料です。また、災害ボランティア活動時の保険は社会福祉協議会が負担します。ご不明の点についてはお問い合わせ下さい。

「みずからまもるレポート」についてのご意見、お問い合わせは

延岡河川国道事務所 調査第一課 ☎0982-31-1191

延岡土木事務所 河川砂防課 ☎0982-21-6143

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所

〒882-0803延岡市大貫町1丁目2889

■HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

■メールアドレス nobeoka@qsr.mlit.go.jp

延岡土木事務所

〒882-0872延岡市愛宕町2-15

■HPアドレス <http://www.pref.miyazaki.lg.jp>

■メールアドレス kasen@pref.miyazaki.lg.jp

※各ページに掲載の写真及び記事などの無断転載を禁じます。

平成20年4月発行



みずからまもるレポート

vol.3



Protect from water by myself

五ヶ瀬川亀井橋下流

川島排水ポンプ場

「みずからまもる」プロジェクトの現在の状況とこれからの取り組みをお伝えします。



岡富地区(H17.9台風14号出水時)

五ヶ瀬川・大瀬川・祝子川・北川が市の中心部を流れる延岡市では、平成17年に発生した台風14号により、軒並み戦後最高となる水位を記録し、市内5ヶ所では堤防を越水、河川水位の上昇による内水被害が発生するなど大きな爪跡を残しました。

このような被害を軽減するため、平成17年11月18日「五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業(通称:激特事業)」に採択され、平成21年度までの5カ年計画(安賀多橋架替については平成

22年度まで)で、集中的に河川改修を進めています。

併せて浸水被害を着実に軽減させるために国・県・市が一体となった「みずからまもる」プロジェクトを設立し、地域や関係機関と連携しながら、河川事業などのハード整備だけでなく、防災メールサービスやハザードマップの公表など、ソフト面での対策も行っています。

現在の進捗状況と今後の取り組みについてレポートします。



五ヶ瀬川の亀井橋下流

激特事業とは?

洪水や高潮などにより大きな被害が発生した地域において、様々な河川改修を短期間(概ね5カ年)に集中して行い、その後の災害被害を軽減する事業です。平成9年に大きな被害があった五ヶ瀬川水系北川では、すでにこの事業の効果が発揮されています。

「みずからまもる」とは?

災害を軽減するには、治水事業だけでは限界があり、各行政や地域の方々自らが「災害に強い地域づくり」を進めることが大切です。「みずからまもる」プロジェクトとは、「水からまもる」=水を治める、「自らまもる」=地域の防災力向上を併せて被害軽減に努める意味で付けられました。

水からまもる ～五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）の進捗状況③～

	河道掘削(施工中)
	河道掘削(完成)
	築堤(施工中)
	築堤(完成)
	排水ポンプ場(施工中)
	排水ポンプ場(完成)
	H17年台風14号 浸水箇所



河道掘削 かどうくっさく

河道掘削とは、川を広くまたは深くして洪水を流れやすくする工事です。

五ヶ瀬川では現在までに、浜砂地区、古城地区、岡富・古川地区、本小路・北小路地区の掘削を実施してきました。

今後、大貫地区、野田地区などの河道掘削を実施します。



河口での河道掘削状況

隔流堤 かくりゅうてい

河川の合流部に設置することにより、合流による水位上昇を防ぎます。

延長約760mのうち、平成19年度までに約500m完成しました。

隔流堤の下流部分には水門が平成20年3月に完成し、平成20年度は残り260mの隔流堤を施工していきます。



隔流堤水門

堤防 ていぼう

洪水が越水しないよう堤防を設置(築堤)、または計画の高さまで高くなります(かさ上げ)。

岡富・古川地区では宮崎県、延岡市土地改良区と連携し、宅地及び道路改良工事と併せて堤防のかさ上げを進めていきます。

また三輪地区の堤防についても平成20年度末の完成に向けて工事を進めていきます。



三輪地区築堤完成

安賀多橋架替 あがたばしかけかえ

老朽化の進んでいた安賀多橋の架け替えを行ない洪水を安全に流しやすくします。

架け替えを行うにあたり「安賀多橋の景観を考える会」を3回開催し、これまでの安賀多橋の景観を損なわないよう橋面のデザインや色彩等を決定しました。現在、安賀多橋の交通網を確保するため仮設橋を設置し、平成20年度は現在の橋梁の撤去を進めていきます。



安賀多橋架替の状況

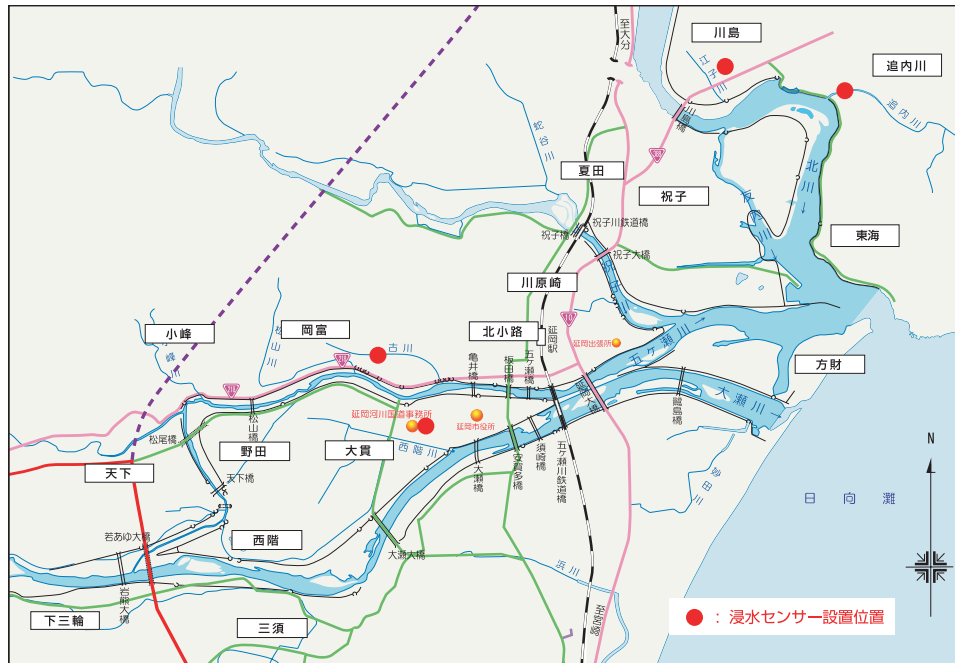
※掘削や築堤箇所は、河川の現状を考慮した事業計画を見直しながら実施するため、実際の工事箇所などについては変更する場合があります。



自らまもる ～ 水害に強い地域づくり③ ～

浸水センサーの設置

浸水情報の収集・伝達をより的確に実施するため、浸水が広く発生した地区、床上浸水家屋が多かった地区や浸水頻度が高い地区などに浸水センサーの設置を平成20年3月に完了しました。浸水センサーを設置することで、浸水の実態をリアルタイムに監視できるとともに、防災関係機関及び地域の方々への迅速かつ確かな情報提供を実施することが出来ます。



地域防災マップの作成

現在、延岡市では各地区において「地域防災マップ」の作成が進められています。「地域防災マップ」とは、各地区の浸水範囲などが提供されている「洪水ハザードマップ」を元に、地域のより詳細な浸水情報や避難場所などを記載する事ができ、また防災だけではなく危険な箇所などを記載することで、防犯も考えたマップの事をいいます。

住民の方々マップを作成する事により、防災・防犯における情報伝達ツールとして活用でき、より地域の連携向上に役立てていくことができます。



古川地区防災マップ

あなたの地域でも防災マップを作ってみませんか？

出前講座のご要望

延岡市消防本部
0982-22-7105

ケーブルテレビによる河川映像の提供

国土交通省で設置している河川カメラの映像を洪水の期間ケーブルテレビへ提供し、洪水の状況や文字による道路情報や避難勧告など、防災専用チャンネルにて24時間情報を配信しています。



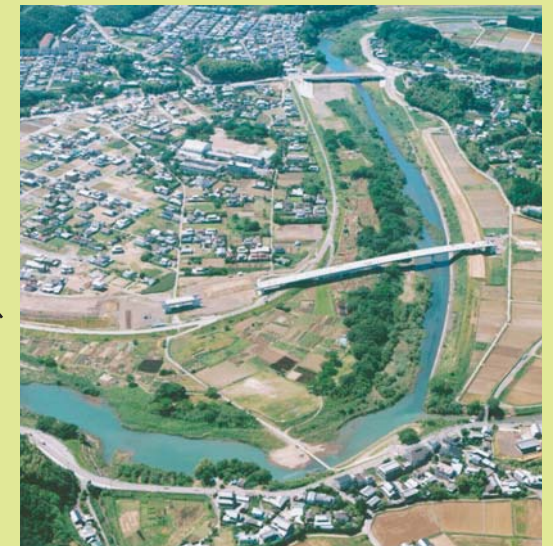
※実際の放送内容とは異なる場合があります。

河川利用・河川環境への配慮

●環境保全の取り組み

野田地区は、豊かな自然環境が残されており、河川敷はグラウンドや緑地広場など地域の方々の交流の場として利用されています。

そのため河道掘削にあたっては、地域の声を反映するとともに、学識経験者の助言を基に河川環境に極力影響を与えない川づくりを進めていきます。



野田地区の河川敷の状況

事業中もモニタリング(追跡調査)を重ねながら、最適な対処方針を検討し、事業を進めていきます。

工事実施

河道掘削
樹木伐採
築堤 etc...

モニタリング

河道形状
動植物
水質 etc...



学識経験者による現地視察

排水ポンプ場 はいすいぼんぷじょう

洪水時に対象支川の水が溢れないように、ポンプを使って本川に強制的に排水する施設です。

平成19年11月、川島排水ポンプ場が完成し、完成式を地域住民の方も参加して開催しました。

道内川排水ポンプ場では、平成19年度に工事着工し、平成21年度完成を目標に工事を進めています。また祝子川の夏田地区の蛇谷川排水ポンプ場においても、平成19年度より宮崎県による工事が進められています。



道内川排水ポンプ場の状況



川島排水ポンプ場完成式



ポンプ始動式の様子



蛇谷川排水ポンプ場の状況

延岡河川国道事務所ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

宮崎県の雨量・河川水位観測情報 <http://kasen.pref.miyazaki.jp>

宮崎県防災・防犯情報メールサービス(携帯)登録先 <https://www.fastalarm.jp/miyazaki>

延岡市災害情報メールサービス(携帯)登録先 b@nobeoka.yobidashi.com

上記メールアドレスに空メールを送信して下さい。折り返し登録フォームが送られてきます。

国土交通省 川の防災情報(携帯) <http://i.river.go.jp>

宮崎県の雨量・河川水位観測情報(携帯) <http://kasen.pref.miyazaki.jp/mobile>

メールサービスとは
災害時に状況をメール配信
するシステムです

延岡市防災メール受信(イメージ)